

経済学部 教授 坂口明義

私たちは貨幣マネーの力に翻弄されたくない、むしろそれをうまく利用したい。しかし現実には、金融グローバル化により国境を越えて貨幣が自由に移動すると、大きな金融危機が起こるし、最近では、国家の管理を免れたビットコインのブームが経済を混乱させた。そして大混乱の後には、決まって貨幣統制の動きが始まる。最初からしっかりと制御しておけばよいのに……。

著者マーティンは、同じ過ちが繰り返されるのは、人間が貨幣について無知であるためだと考える。そこで貨幣の歴史を振り返りながら、読者に貨幣の性質を正しく知ってもらおうとする。本書によれば、古代メソポタミアの粘土塊クレイトークンという貨幣の萌芽がギリシャやローマに伝わりマネー社会が開花した。ところが中世封建社会では、公式貨幣(金属鑄貨や政府紙幣)と民間貨幣(預金や証券)の対立から周期的に混乱が起きた。市民革命後のイギリスでイングランド銀行が設立され、2種類の貨幣の間で妥協が成立し、ようやく対立は調停された。資本主義経済はこの妥協の下で発展したが、その過程では妥協の崩壊とその再構築が繰り返された。今の貨幣は対立と妥協の壮大な歴史の中にある。

こうして本書は、貨幣の歴史から教訓を学び、妥協の安定と貨幣の信頼向上の重要性を訴えていく。世界史を学んだ人なら大きな困難なしに読めると思うので、ぜひ読んでいただきたい。貨幣をよく知れば経済への興味も湧いてくると思う。



21世紀の貨幣論 / フェリックス・マーティン著 ; 遠藤真美訳
東洋経済新報社, 2014.10

本 館 K/337.2/Ma53

神田分館 /337.2/Ma53